

### 3-3 その他の活動

#### 3-3-1 協力者会議～炉端の会・民技会・園の3者による協働

平成16年、博物館界にも行財政改革の嵐が吹き荒れる中、新聞報道された「川崎市市民ミュージアムは赤字会社～民間なら倒産」の記事をきっかけに、当時の民技会会長の提案で、日本民家園でも改革の試みが始まった。

「民家園のこれからを考える会」（H16年度3回）と称し、炉端の会と民技会の会員に広く呼びかけ、両会の有志と園職員がフラットに話し合う場が設定された。事業概要・入園者数長期低落傾向・予算などの説明を受け、フリートーキング「集客力を高めるには」、グループ討議（園の強みと弱み、自分達は何ができるか、何を目指すか（使命）、各自が取り組みたい課題（決意表明））等を行い次年度以降の取り組み方法を検討した。フリートーキングには炉端の会（1-3G18名）、民技会7名、職員6名が集まった。

翌年度には「日本民家園協力者会議」に発展、全体会と作業部会で構成し、3つの条件（今年度中に実施できる、お金がかからない、人手は募集）の下、民家園の魅力を高め集客につながる方策を具体的に検討した。全体会では会長・班長・グループ長・職員など15名位でテーマ選定や方向性を検討し、作業部会は広く両会から会員募集、特定テーマの実行を具体的に考えた。計80余の改善項目から、広報・園内サービス・行事の3部会（年3-5回）ができた。この年度に実施できたのは、スタンプラリー完成スタンプ、チーム発足（フリーガイド、英語ガイド、環境整備、障子張り）、床上公開棟で飲物可、炉端でチラシ配布、ワークシート、行事カレンダー・英文HP充実、着物で歩こう、お月見をしよう等である。

H18年度は条件を変更し（2-3年でできる、予算要求も可）、展示・園内サービスの2部会を追加、雨天時小学校団体昼食場所提供（民家内）、土間ベンチ、民具着用体験（炉端）、火天にべんけい等展示、リーフレットに全棟写真、中国語リーフレット、展示チーム、骨董市、夜間公開、樹木プレート、藍染バンダナ、新絵ハガキ、昔話等が実現した。H19年度には、年間パスポート、園内ガイド、蕎麦店の公園側入場可、文化財集落施設協議会共通HP、両会の情報交換、民技会向け園内ツアー、ポルトガル語リーフレットが実現、5部会は活動を中止しその後は必要時に再開することとなった。H20-21年度に活動したアンケート部会では、アンケートの項目だてや書式を検討作成し、来園者の要望をさぐる手立てとしてその後の協力者会議等で活用している。どの作業部会も全体会も炉端の会や民技会会員の並々ならぬ熱意・企画力・実行力が園を後押しした。

全体会にあたる協力者会議（年3回）は現在まで継続され（議事進行は両会で交替）、当初3年で提案された項目のうち、○実施した 39、△実施半ば・実施したが中止 20、×実施していない 24となっている。ここ数年は、アンケート記述や日常活動を通じて得られる来園者要望の実現や、民家園事業の改善・発展に向けて具体的な方策を検討している。またH26年度は50周年記念事業についても検討した。

（編集委員 15期 日曜 木下）